解説：ウクライナ情勢、分断と対立を生んだロシアとの根深い歴史

元はバイキングがつくった同じ国、両国はなぜかくも対立するのか

2022.3.9

8件のコメント

印刷 クリップ

文＝EVE CONANT／訳＝北村京子

この記事はナショナル ジオグラフィック日本版サイト からの転載です

2014年、モスクワの圧力を受けたウクライナ政府が欧州連合との関係強化の合意を断念したことにより、キエフのマイダン（独立広場）は騒乱の渦に巻き込まれた。ウクライナの西側への接近に反対するロシアは、隣国に侵攻する構えを見せている。（PHOTOGRAPH BY JEFF J. MITCHELL, GETTY IMAGES）

［画像のクリックで別ページへ］

ロシアによるウクライナ侵攻の脅威が連日報道されているが、両国の対立は昨今に始まったわけではない。長く複雑にからみあったその歴史を振り返れば、今日の対立の舞台がどのようにできあがったかが見えてくる。

両国の歴史は、1000年以上前にバイキングが現在のウクライナの首都キエフを中心に築いたスラブ系の大国、キエフ公国の時代に遡る。ウクライナもロシアも起源は同じ国だった。（参考記事：「バイキング、知られざるその壮大な歴史」）

西暦988年、キエフ公国のノヴゴロド公ウラジーミル1世がギリシャ正教に改宗し、クリミアの都市ケルソネソス（古代ギリシャの植民都市だった）で洗礼を受けた。この洗礼以降、「ロシア人とウクライナ人はひとつの民であり、一体である」と、昨年、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は宣言している。

キエフ公国の支配者ウラジーミルが、西暦988年、ギリシャ正教を新たな国教とする姿を描いた19世紀の絵画。キエフ公国はウクライナ、ロシア両国の起源となった国。（ARTWORK COURTESY OF MUSEUM OF THE HISTORY OF RELIGION VIA BRIDGEMAN IMAGES）

［画像のクリックで別ページへ］

800年にわたり繰り返し支配されてきたウクライナ

しかし過去800年近く、ウクライナは互いに競い合ういくつもの勢力によって、繰り返し支配されてきた。東からやってきたモンゴル軍がキエフ公国を滅ぼしたのは13世紀のことだ。この侵攻が、モスクワを中心とする地方政権がロシア帝国にまで発展する発端となった。

16世紀にはポーランドとリトアニアの軍隊が西から侵入する。17世紀、ポーランド・リトアニア共和国と帝政ロシアとの戦争により、ドニエプル川より東側とキエフがロシア皇帝の支配下に置かれた。東側は「左岸ウクライナ」と呼ばれ、ドニエプル川より西の「右岸」はポーランドが支配した。

それから1世紀以上たってポーランドが弱体化すると、1793年から95年にかけて右岸ウクライナ（西部）がロシア帝国に併合された。その後、「ロシア化」と呼ばれる政策により、ウクライナ語の使用と学習が禁止され、人々はロシア正教への改宗を迫られた。

ソ連時代に何百万もの人々が飢え死にに

ウクライナは20世紀にも大きな苦難に見舞われている。1917年のロシア革命の後、多くの国と同じく、ウクライナも激しい内戦に突入したが、1922年にはソビエト連邦の構成国となった。

1930年代初頭、ソ連の指導者ヨシフ・スターリンは、農民を集団農場に参加させるためにあえて飢饉を引き起こし、何百万人ものウクライナ人を飢餓と死に追いやった。その後、ウクライナ東部の人口を埋め合わせるために、スターリンはロシア人をはじめ多くのソビエト市民を移住させた。その多くは、ウクライナ語を話さず、地域にほとんど縁のない者たちだった。

ソビエトの指導者ヨシフ・スターリンが容赦なく農業の集団化を推し進めたことにより、1930年代には広範な飢饉が起こり、何百万人ものウクライナ人が死亡した。「ホロドモール（飢餓による死の意）」と呼ばれるこの飢饉の後、農村地帯の人口を補うために、ロシアから移民が送り込まれた。
（PHOTOGRAPH VIA AP）

［画像のクリックで別ページへ］

次ページ　東西の大きな分断の背景にあるもの

1 2

解説：ウクライナ情勢、分断と対立を生んだロシアとの根深い歴史

元はバイキングがつくった同じ国、両国はなぜかくも対立するのか

2022.3.9

8件のコメント

?

印刷 クリップ

文＝EVE CONANT／訳＝北村京子

1939年11月、ウクライナ西部（当時はルーマニア内）の都市チェルニウツィに退避し、演説をする人。この数カ月前、ドイツ軍とソビエト軍がポーランドに侵攻し、ポーランドの支配下にあったウクライナ西部をウクライナ・ソビエトに組み入れていた。（PHOTOGRAPHED BY ANATOLIY GARANIN, SPUTNIK/AP）

［画像のクリックで別ページへ］

[画像のクリックで拡大表示]

こうした歴史的な経緯が、長きにわたる断絶を生み出した。ウクライナ東部は西部よりもずっと早い時期からロシア支配下にあったため、東部の人々はロシアとの結び付きが強く、ロシア寄りの指導者を支持する傾向にある。

対してウクライナ西部は、ポーランドやオーストリアなど、欧州列強の支配下に何世紀にもわたって置かれていた事情などから、西部の人々は西欧寄りの政治家を支持する傾向にある。東部にはロシア語を話す正教会の信者が、西部各地にはウクライナ語を話すカトリック信者が多い。（参考記事：「ウクライナ正教会、ロシア正教会から独立へ」）

東西の大きな分断の背景にあるもの

1991年のソビエト連邦の崩壊により、ウクライナは独立国となった。しかし、国を団結させるのは容易なことではなかった。その理由のひとつは、「ウクライナ東部で

は、西部ほど愛国意識が強くない」ことだと、元駐ウクライナ米大使のスティーブン・パイファー氏は言う。民主主義と資本主義への移行は、痛みと混乱を伴うものであり、東部を中心に多くのウクライナ人が、以前の比較的安定した時代のほうがよかったという気持ちを抱いていた。

1991年、ウクライナ南部の黒海に面した港町オデッサで、力と正義を標榜するソビエトの看板の前を通り過ぎる歩行者。この年、ソビエト連邦が解体され、ウクライナは独立国となった。（PHOTOGRAPH BY BERTRAND DESPREZ, AGENCE VU/REDUX）

［画像のクリックで別ページへ］

「こうしたさまざまな要因を経てできた最大の分断は、ロシア帝国とソビエトによる支配を好意的にとらえている人たちと、これを悲劇として見る人たちとの間にあるものです」と、米シンクタンク大西洋評議会の元研究員で、ウクライナに詳しいエイドリアン・カラトニツキー氏は言う。この亀裂が顕在化したのが新欧米派の政権を誕生させた2004年のオレンジ革命であり、何千人ものウクライナ人がヨーロッパとの統合拡大を支持してデモ行進を行った。

環境の特性を示した地図を見れば、ステップと呼ばれる肥沃な農地を有するウクライナ南部・東部地域と、森林の多い北部・西部地域との間にも隔たりがあることがわかると語るのは、米ハーバード大学の歴史学教授で、同大学ウクライナ研究所所長のセリー・プロキー氏だ。氏によると、地図に示されたステップと森林の境界は、東部と西部の間を斜めに走るラインとなっており、これは2004年と2010年のウクライナ大統領選挙における政治状況を表す地図と「驚くほど似通って」いるという。

ウクライナの国旗の色である黄色と青のカーテンの前で踊るキエフの若いダンサー。1991年以降に生まれたウクライナ人は「生まれながらの自由の世代」と呼ばれており、その大半が、自国がロシアの脅威を逃れて西欧の一員となることを望んでいる。（PHOTOGRAPH BY AGNIESZKA RAYSS, REDUX）

［画像のクリックで別ページへ］

クリミアは2014年にロシアに占拠・併合され、その後まもなくウクライナ東部のドンバス地方で分離独立派が蜂起し、結果として、ロシアの支援を受けたルガンスク人民共和国とドネツク人民共和国の建国が宣言された。現在、ロシア軍は再び、この土地の波乱に満ちた歴史を象徴する断層線であるウクライナの国境に集結している。

［ナショナル ジオグラフィック日本版サイト2022年2月22日掲載］情報は掲載時点のものです。

ナショナル ジオグラフィック日本版　最新号

世界で大型ネコ科動物の危機が叫ばれるなか、インドではトラやヒョウが増えています。何が起きているのか、特集「インドのビッグ・キャット」でレポートします。このほか、地域の経済を支えてきた降雪が激減し、岐路に立つ「冬が消えるアルプス」、アフリカの昆虫食「空飛ぶタンパク源」など5本の特集をお届けします。

［画像のクリックで別ページへ］

1 2